



Customize Feature Guide

by SparxSystems Japan

Enterprise Architect 日本語版

作業環境カスタマイズ 機能ガイド(基本編)

(2018/05/16 最終更新)



1. はじめに

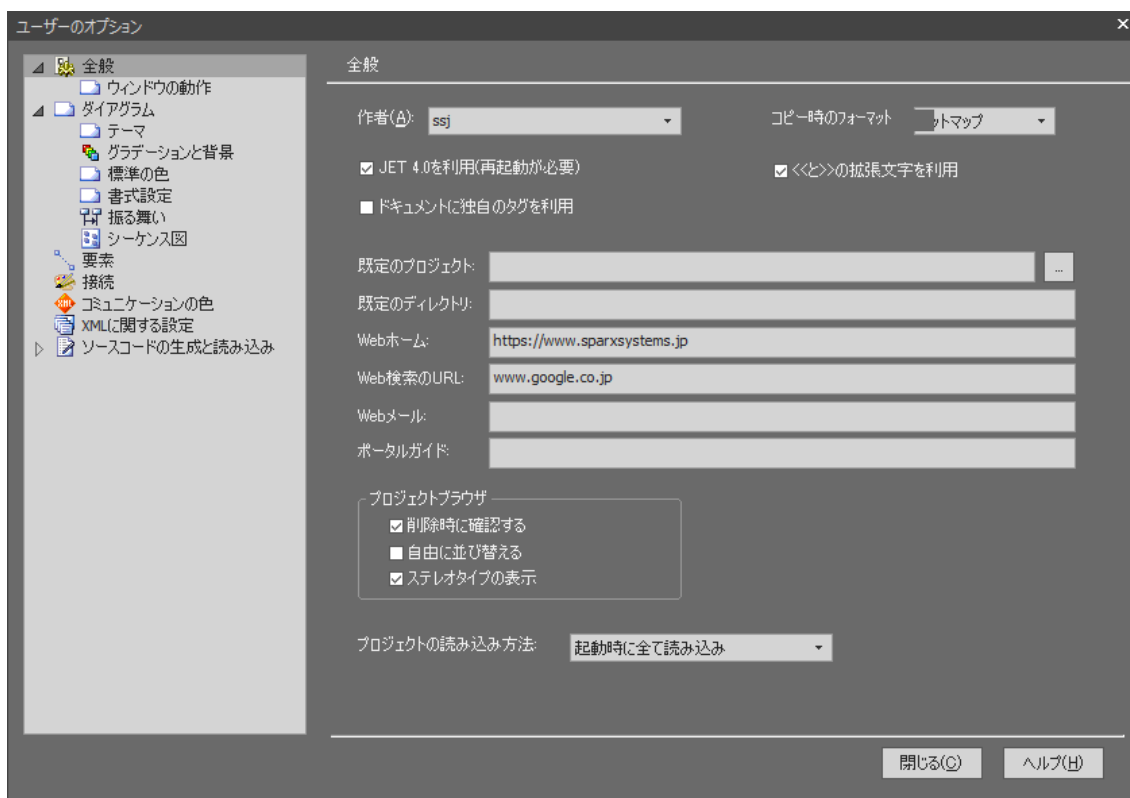
このドキュメントでは、**Enterprise Architect** を利用して作業を行う場合に、より快適に作業を行うためのカスタマイズ可能な項目について説明します。なお、カスタマイズできる項目は非常に多いため、基本的な項目を説明する「基本編」と、より広い範囲についてカスタマイズできる「応用編」に分けて説明しています。

この基本編では、第 2 章でオプション設定について、第 3 章で **MDG** テクノロジーの設定についての概要を説明します。第 4 章でモデリングの作業環境のカスタマイズ可能な機能の概要を説明した後、第 5 章以降で、比較的良好に利用される範囲の個別のカスタマイズについて説明します。状況に応じて利用する可能性のあるカスタマイズについては、「応用編」で説明します。

なお、このドキュメントは、**Enterprise Architect 14.0** ビルド 1418 を元に記載しています。バージョン・ビルドが前後する場合には、内容が異なる場合があります。

2. オプション設定

Enterprise Architect では、数多くの挙動・処理がオプションとして変更可能になっています。このオプション画面は、「ホーム」リボン内の「オプション」パネルにある「ユーザー」あるいは「プロジェクト」を実行すると表示できます。下の画像は、ユーザーのオプション画面です。



設定可能な項目のそれぞれの内容については、右下の「ヘルプ」ボタンを押すと、表示している内容に応じたヘルプページが表示されます。

また、数多くの設定項目のうちの「お勧め」となる、良く変更される項目については、それぞれのダイアグラムごとの「モデリング操作ガイド」で紹介しています。例えば、クラス図のモデリングを行う場合に役に立つオプション項目は、「モデリング操作ガイド クラス図・オブジェクト図編」をご覧ください。

ドキュメントは、以下のページからダウンロードできます。

https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea_documents.htm

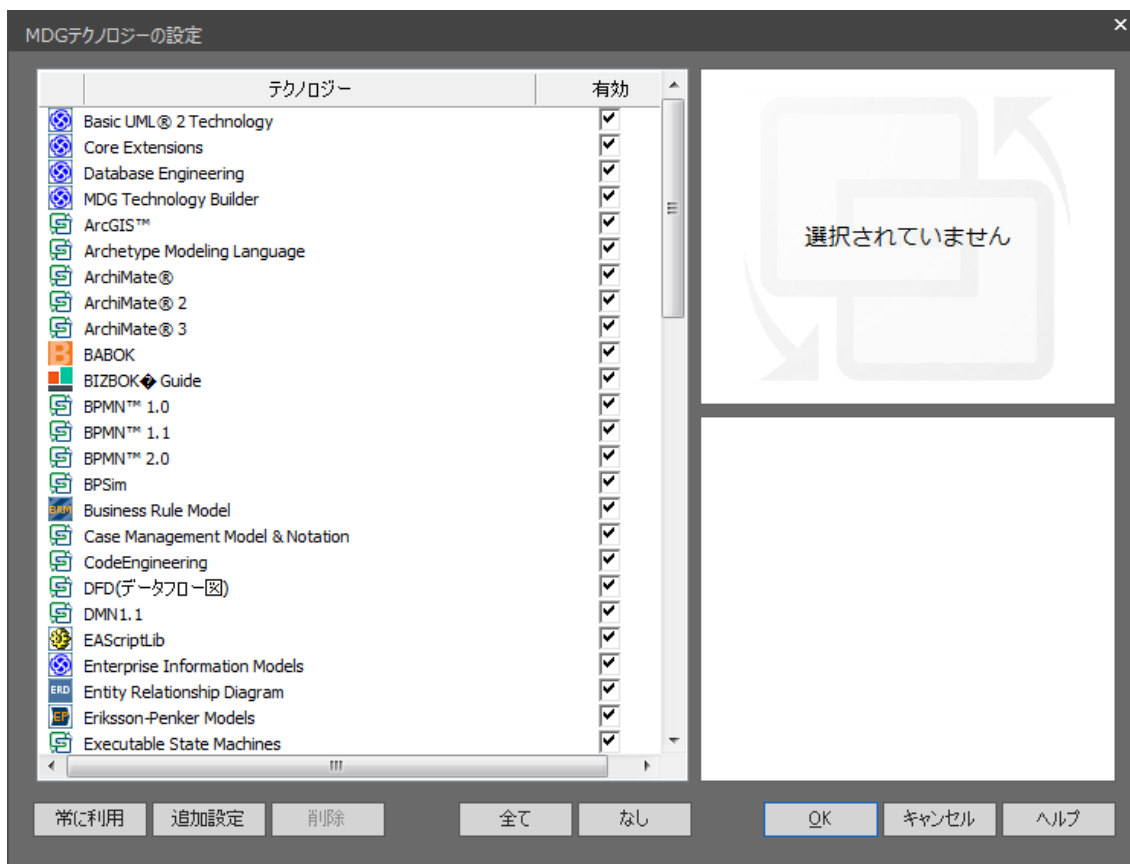
3. MDGテクノロジーの設定

Enterprise Architect を拡張するための手段として、「MDG テクノロジー」と呼ばれている方法があります。この方法を利用して、BPMN(ビジネスモデリング)や DFD(データフロー図)など、UML 以外のモデリングが可能になっています。

Enterprise Architect をインストールした直後の状態では、インストーラでの設定に応じて、いくつかの MDG テクノロジーが有効になっています。その結果、さまざまな図のモデリングが利用できます。また、向こうになっていて利用できない MDG テクノロジーもあります。

しかし、実際には、UML を含めて多くても 2 つないしは 3 つ程度のみを利用する状況が多いです。また、場合によっては例えば BPMN のみを利用し、UML も利用しないことがあります。

このような状況では、不要な(利用しない)MDG テクノロジーを無効にすることで、起動や全体の処理速度の改善が可能です。Enterprise Architect を起動し、「アドイン・拡張」リボン内の「MDG テクノロジー」パネルにある「設定」ボタンを押すと、「MDG テクノロジーの設定」画面が表示されます。



この画面の左側の一覧で、利用しない不要な項目のチェックボックスを外してください。また、利用したい項目にはチェックを入れてください。設定が完了したら **OK** ボタンを押してください。これで、利用する情報のみを読み込みます。

4. 作業環境のカスタマイズの概要

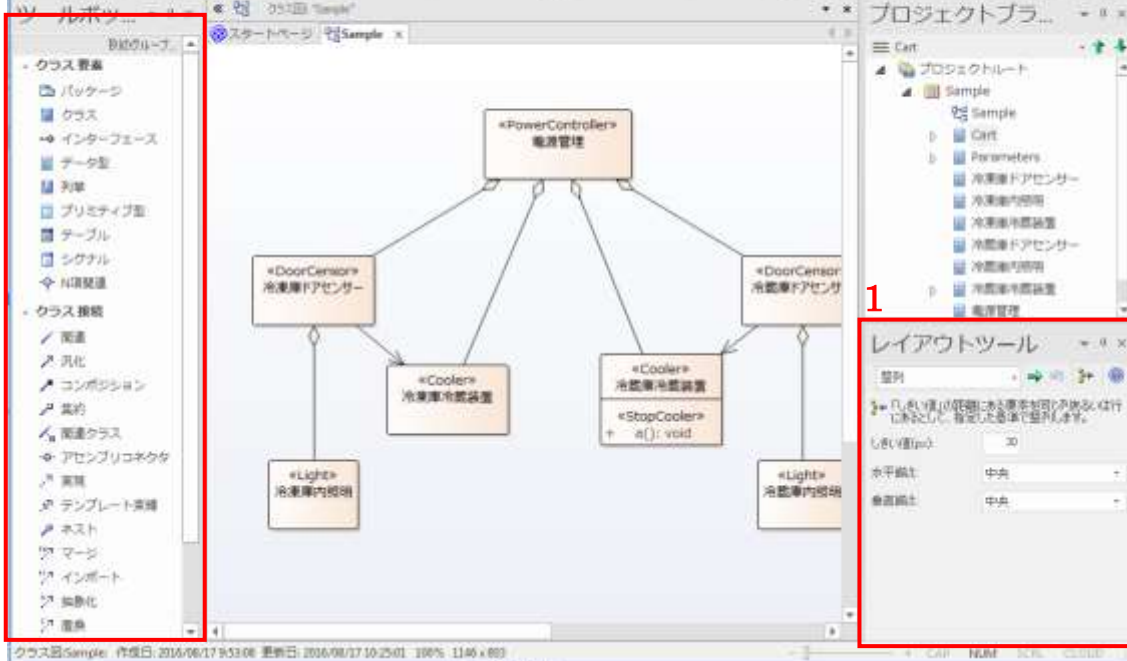
Enterprise Architect の作業環境には、カスタマイズ可能な項目がいくつもあります。そのうち、このドキュメントで説明する項目は次のとおりです。

1. サブウィンドウ
2. リボン*
3. リボン内の「独自に追加したツール」*
4. ツールボックス
5. ショートカットキー*
6. ユーザーインターフェース全体

2,3



4



これ以降の章では、それぞれの章で順番にカスタマイズできる内容とその方法について解説していきます。なお、*マークがついている項目は「応用編」で説明します。

なお、次の内容のカスタマイズにつきましては、別のドキュメントで説明しています。

- (ア) ソースコードの生成結果
 - コードテンプレートフレームワーク(CTF) 機能ガイド
- (イ) DOCX ドキュメントの生成
 - ドキュメント出力機能 機能ガイド
- (ウ) 要素の独自の外見(ダイアグラム内に配置した際の表示のカスタマイズ)
 - UML プロファイル 機能ガイド
- (エ) UML 以外の独自のモデルの定義と利用
 - MDG テクノロジー 機能ガイド

これらのドキュメントは、以下のページからダウンロードできます。

https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea_documents.htm

5. サブウィンドウ

サブウィンドウは、メインウィンドウ以外のほぼ全てのウィンドウを指します。具体的には、以下のようなサブウィンドウが利用できます。

- プロジェクトブラウザ
- ツールボックス
- リソースサブウィンドウ
- プロパティサブウィンドウ
- ノートサブウィンドウ
- その他、多数のサブウィンドウ

これらのサブウィンドウは、「ホーム」リボンおよび「モデル」リボン内にある「表示」パネルにある「ポータル」ボタンを押すと表示されるメニューの「サブウィンドウ」を選択すると表示されるポータルなどから表示させることができます。これらのウィンドウを必要に応じて表示させておくことで、モデリング作業をより快適に行うことができます。

(ディスプレイの解像度が高い方が、より多くのサブウィンドウを利用して効率的に作業を行うことができます。)

また、ダイアグラムやビュー(検索ビューや関係マトリックスなど)も、すべてサブウィンドウと同様に扱うことができます。これにより、複数のダイアグラムを並べて表示したり、

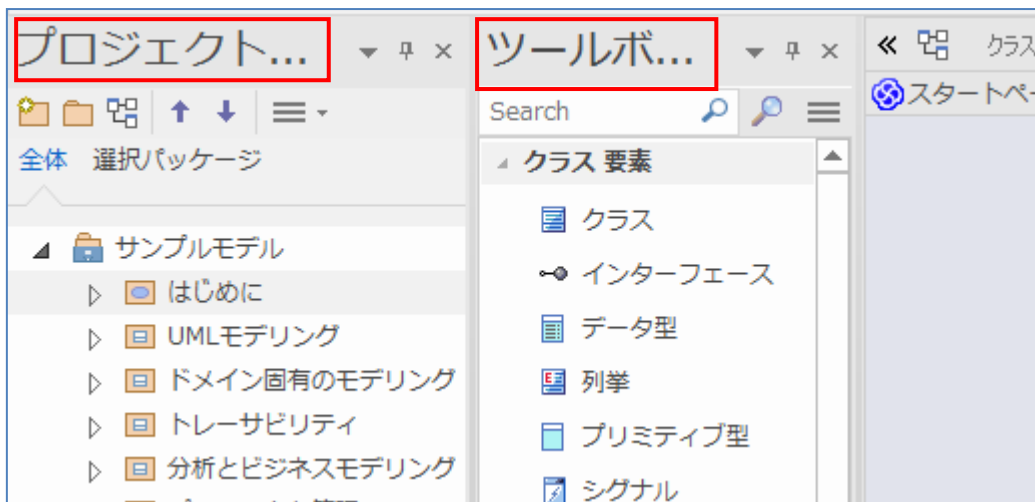
関係マトリックスとダイアグラムを並べて表示したりすることができます。ダイアグラムやビューをサブウィンドウと同じように扱うためには、ダイアグラムの上あるいは下(設定によって変わります)に表示されている、ダイアグラム名やビュー名が表示されているタブをドラッグしてください。

これらのウィンドウに共通する機能として、以下のような機能があります。

- ・ 移動する
- ・ 画面の端にくっつける
- ・ 結合する
- ・ 隠す

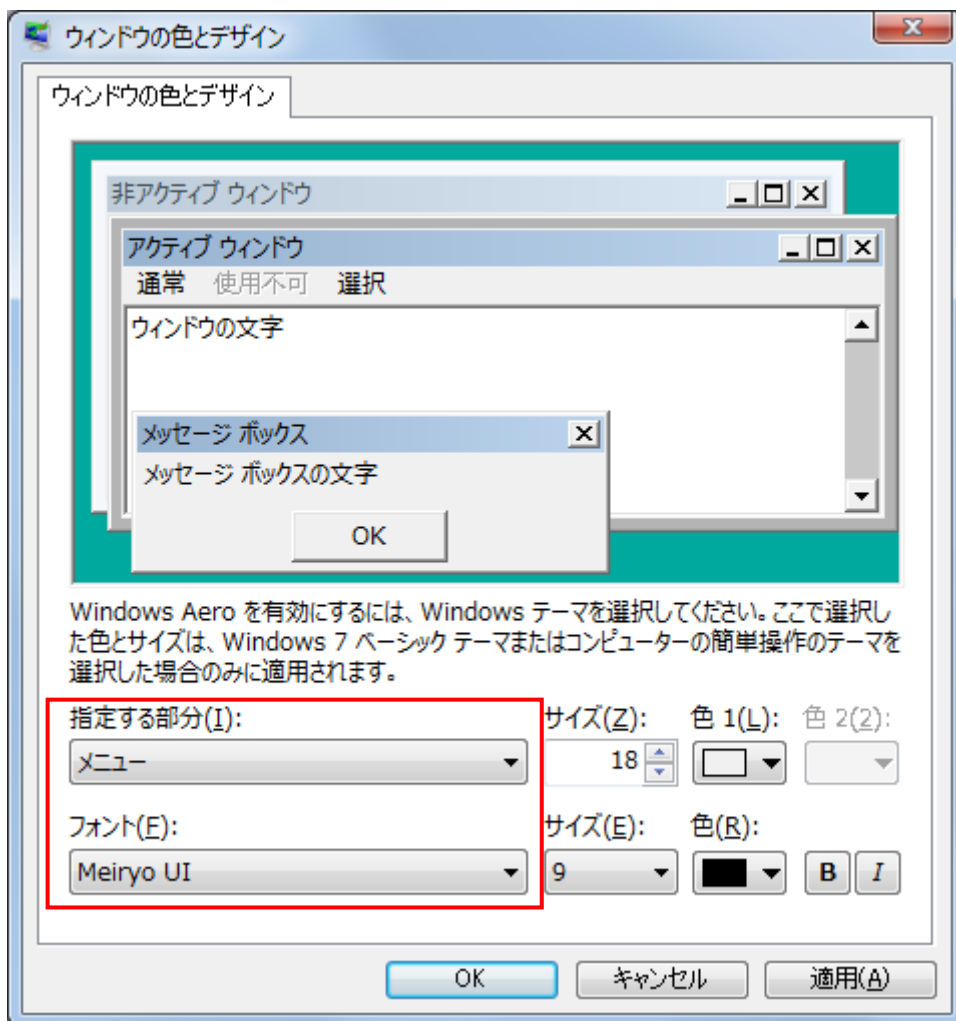
これらの機能について、概要を説明します。なお、表示スタイル(後述)によっては、ここで説明している内容と操作方法が多少異なります。

なお、サブウィンドウのタイトルと幅によっては、サブウィンドウ名が入りきらずに下の図のように省略されてしまう場合があります。



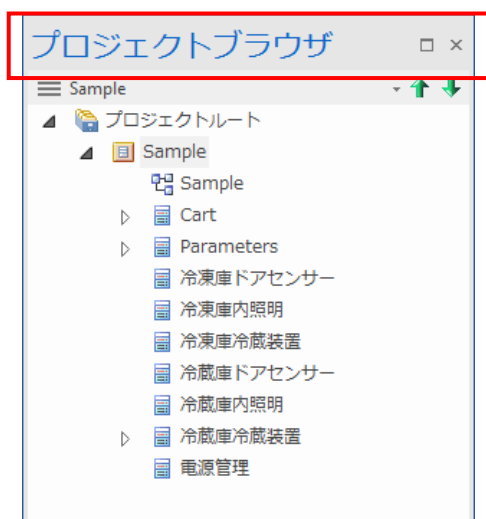
この部分のフォントは、Windows の設定である「ウィンドウの色とデザイン」画面の「メニュー」で指定されるフォントを利用します。この設定を変更することで、利用するフォントを変えることができますので、「Meiryo UI」などを利用することで、表示される内容が増えます。

(フォントサイズは固定で、この画面での設定は反映されません。)




5.1. サブウィンドウの移動

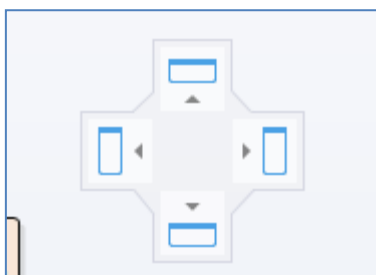
サブウィンドウは、ウィンドウのタイトルが書かれている部分をマウスでドラッグすることで、希望する位置に移動することができます。



なお、このタイトル部分の右端にある×印をクリックすると、そのサブウィンドウは表示されなくなります。「ホーム」リボンおよび「モデル」リボン内にある「表示」パネルにある「ポータル」ボタンを押すと表示されるメニューの「サブウィンドウ」を選択すると表示されるポータルなどから表示させることができます。

5.2. サブウィンドウを端に寄せる

5.1.で説明した方法でサブウィンドウを移動させると、ドラッグ中には以下の図のように、画面の中央や端などに、のようなアイコンが表示されます。以下の画像は、画面の中央に表示されるアイコンです。

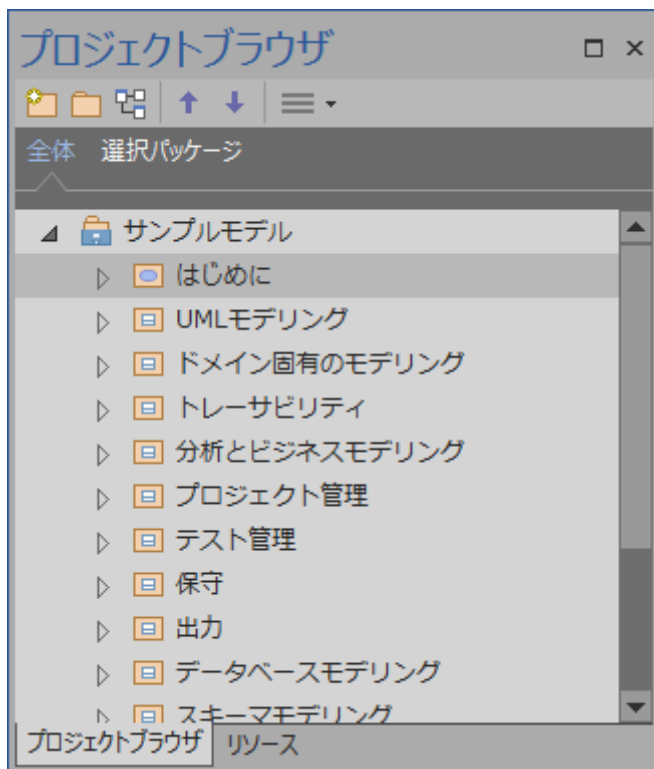


このアイコンは、現在ドラッグしているサブウィンドウをメインウィンドウや他のサブウィンドウに「くっつける」ことができることを示しています。マウスカーソルを移動しアイコンの上に乗せることで、「くっつける」処理を実行した結果が確認できます。結果が表示されている状況でドラッグを終了させると、その位置に配置されます。

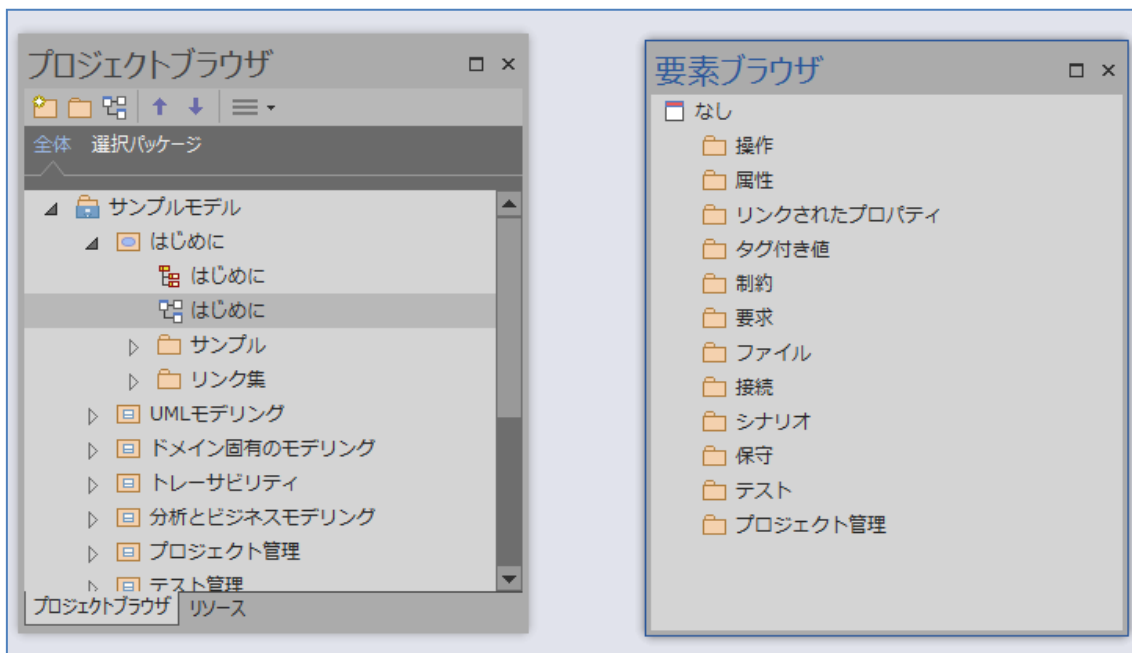
また、別のサブウィンドウの内部にドラッグした状態で表示されるアイコンを利用することで、他のサブウィンドウの中にくっつけることもできます。

5.3. サブウィンドウを結合する

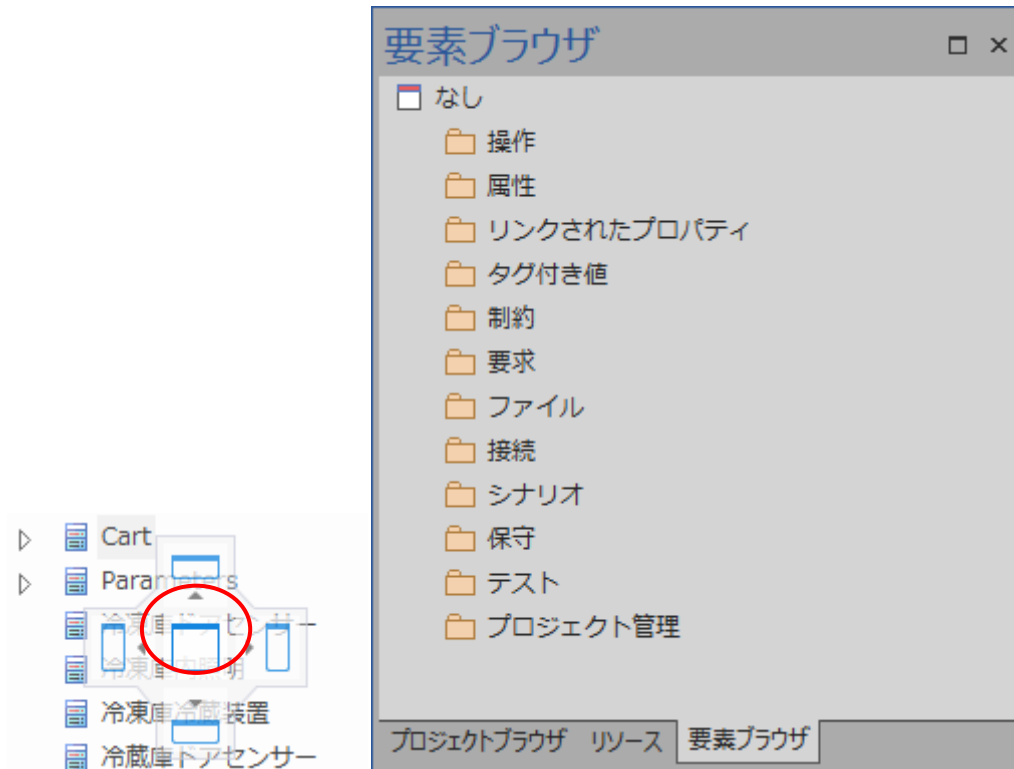
下の例のように、Enterprise Architect では、複数のサブウィンドウを結合してひとつのサブウィンドウにすることができます。



例として、このプロジェクトブラウザのウィンドウに、さらに「要素ブラウザ」サブウィンドウを結合します。結合前の状態は、下の図のとおりです。



この状態から、要素ブラウザのウィンドウをドラッグしてプロジェクトブラウザの上に載せたときに表示される、下の図左側のマークの中央部にドロップすることで、タブとして「要素ブラウザ」が追加されます。



この状態になると、要素ブラウザサブウィンドウがプロジェクトブラウザと同じウィン

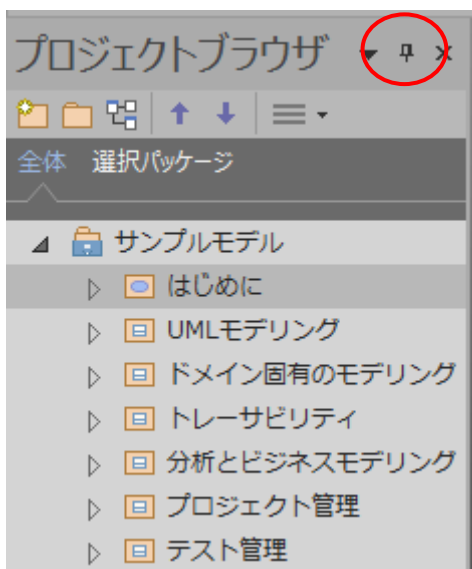
ドウの中に格納され、タブで切り替えられるようになります。逆に、元に戻したい場合には、このタブをドラッグして外に出してください。

5.4. サブウィンドウを隠す

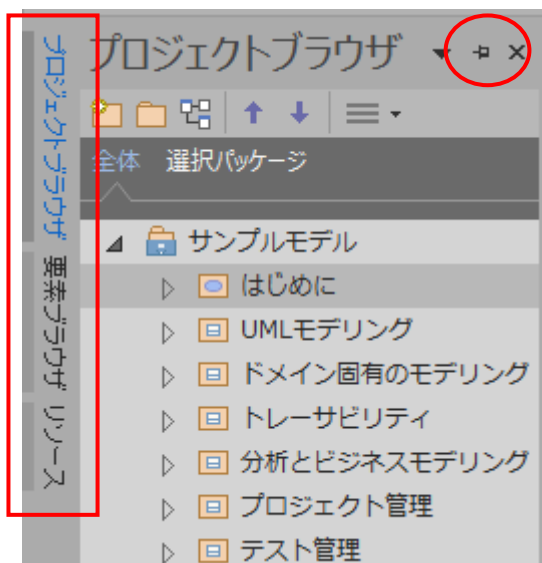
今まで説明したテクニックを駆使しても、サブウィンドウが表示されている限り、ダイアグラムなどのタブが表示される領域は狭くなります。作業面積の広いディスプレイを利用している場合には問題ありませんが、ノートパソコンのような狭い画面を利用している場合には、表示されていること自体が邪魔になることもあります。このような場合には、必要などきだけ表示させることができます。

なお、この機能はサブウィンドウがウィンドウの端にくっついていなければ利用できません。5.2 章を参考に、いずれかの端にウィンドウをくっつけてください。

サブウィンドウがメインウィンドウくっついた状態になると、サブウィンドウのタイトルバーに以下の図のような画鋸のボタンが表示されます。



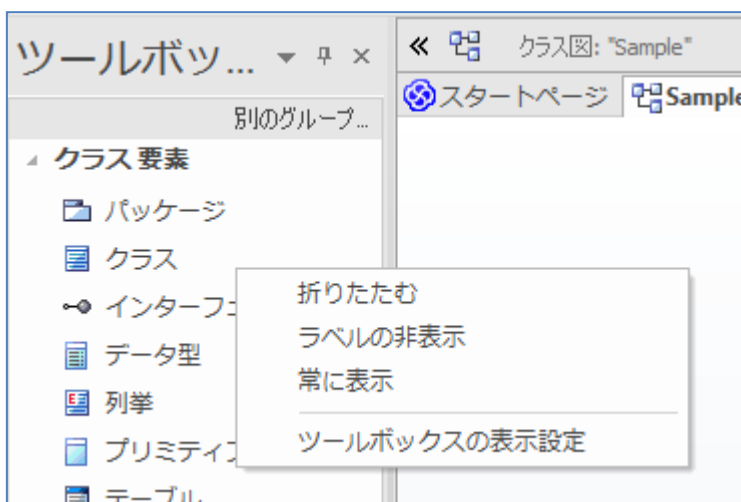
このボタンをクリックするとウィンドウの端に以下の図の「プロジェクトブラウザ」「リソース」「要素ブラウザ」のようなバーが追加されます。また、先ほどクリックした画鋸ボタンの外見が変化します。



この状態でマウスカーソルを移動させて、サブウィンドウの上からはずすと、このサブウィンドウが画面の端に隠れます。この状態で、上の図の右端にある縦書きの部分のみがそのまま表示されていますので、この上にマウスカーソルを移動させると、再びサブウィンドウの内容が表示されます。

6. ツールボックス

ツールボックスについても、表示内容をカスタマイズできます。



ツールボックスの背景で右クリックすると、上の図のようにコンテキストメニューが表示されます。ここで「ラベルの非表示」を選択すると、アイコンのみの表示となりコンパクトな表示になります。逆に、アイコンのみが表示されている場合に「ラベルの表示」を

選択することで、アイコンに名前が表示されるので、アイコンだけで判別できない場合に便利です。

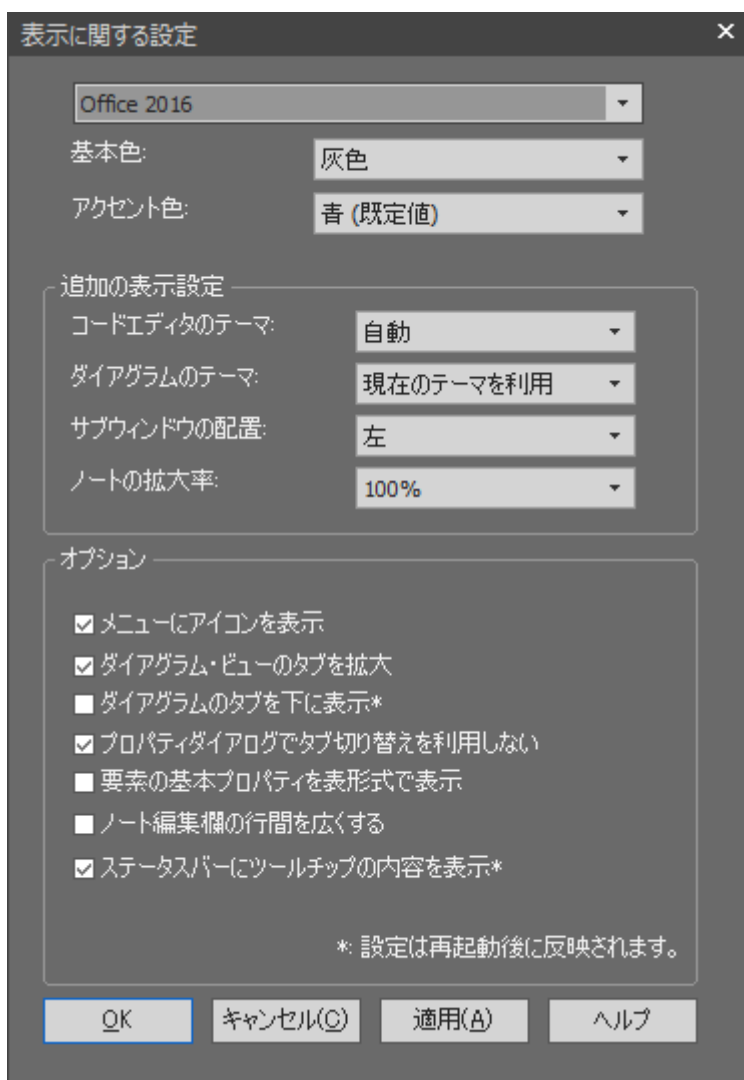
また、「常に表示」を選択した場合には、他のグループに切り替えた場合にもその内容が引き続き表示され、ダイアグラム内に簡単に要素や接続を配置することができます。

ツールボックスに表示される、個々の要素や接続についてカスタマイズしたい場合には、「MDG テクノロジー」と呼ばれる **Enterprise Architect** の拡張の仕組みを利用してカスタマイズする必要があります。

7. ユーザーインターフェース全体

Enterprise Architect では、ユーザーインターフェース全体のスタイルを選択することができます。

変更する場合には、「ホーム」リボン内の「画面構成」パネルにある「表示に関する設定」を実行します。表示に関する設定ダイアログでは、「Microsoft Office 2000」「Microsoft Office XP」「Microsoft Office 2003」などのスタイルを選択できます。Office 2007 スタイルなどいくつかのスタイルについては、色を指定することもできます。

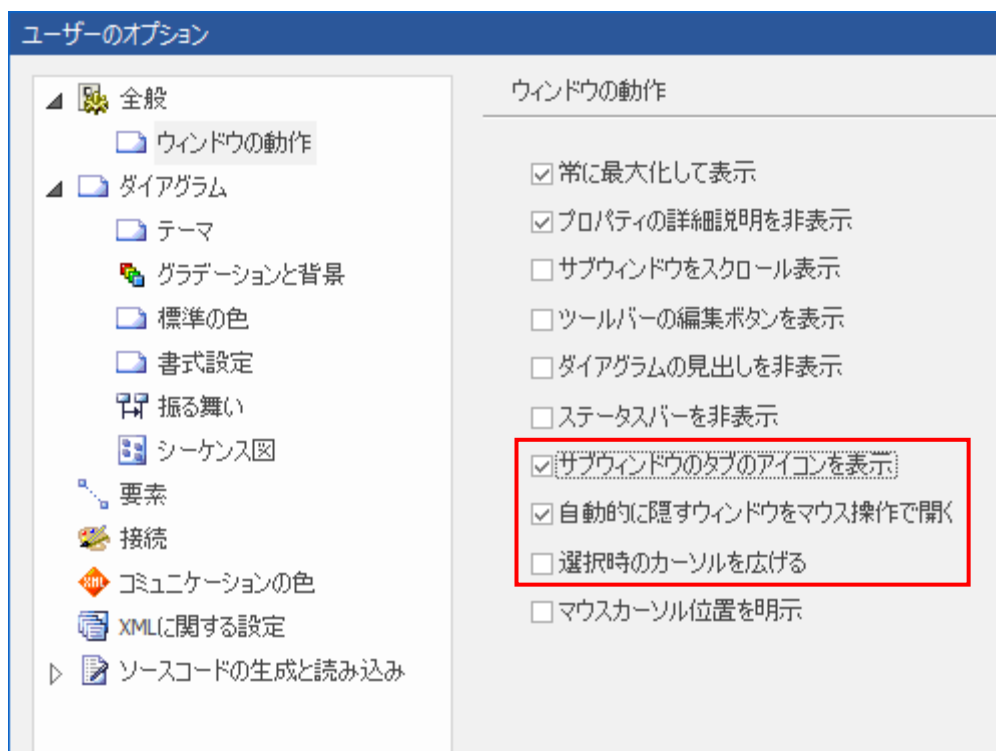


8. バージョン14.0で、バージョン13.5までと同じ見た目にする

バージョン 14.0 では、Enterprise Architect 日本語版をインストール直後のスタイルや表示に関する設定の既定値が変更されています。バージョン 13.5 までの見た目と同じにするための設定は次の通りです。それぞれ、赤枠の部分の内容を画像と一致させてください。

- 「ホーム」リボン内の「画面構成」パネルにある「表示に関する設定」

- 「ホーム」リボン内の「オプション」パネルにある「ユーザー」を押すと表示されるユーザーのオプション画面の「ウィンドウの動作」



○改版履歴

2007/06/25 Enterprise Architect バージョン 7 リリースに伴い、画像および操作方法を更新。ツールボックスの章を更新。

2009/03/24 Enterprise Architect バージョン 7.5 リリースに伴い、画像および内容を更新。

2010/04/16 ドキュメントを 2 つに分割。Enterprise Architect バージョン 8.0 リリースに伴い、画像および内容を更新。

2011/05/18 Enterprise Architect バージョン 9.0 リリースに伴い、画像および内容を更新。

2011/12/13 Enterprise Architect バージョン 9.2 リリースに伴い、画像および内容を更新。

2012/03/07 Enterprise Architect バージョン 9.3 リリースに伴い、画像および内容を更新。

2012/12/14 Enterprise Architect バージョン 10.0 リリースに伴い、画像および内容を更新。

2015/02/12 Enterprise Architect バージョン 12.0 リリースに伴い、内容を更新。

2015/12/01 Enterprise Architect バージョン 12.1 リリースに伴い、内容を更新。

2016/10/07 Enterprise Architect バージョン 13.0 リリースに伴い、内容を更新。

2018/05/16 Enterprise Architect バージョン 14.0 リリースに伴い、内容を更新。第 8 章を追加。